

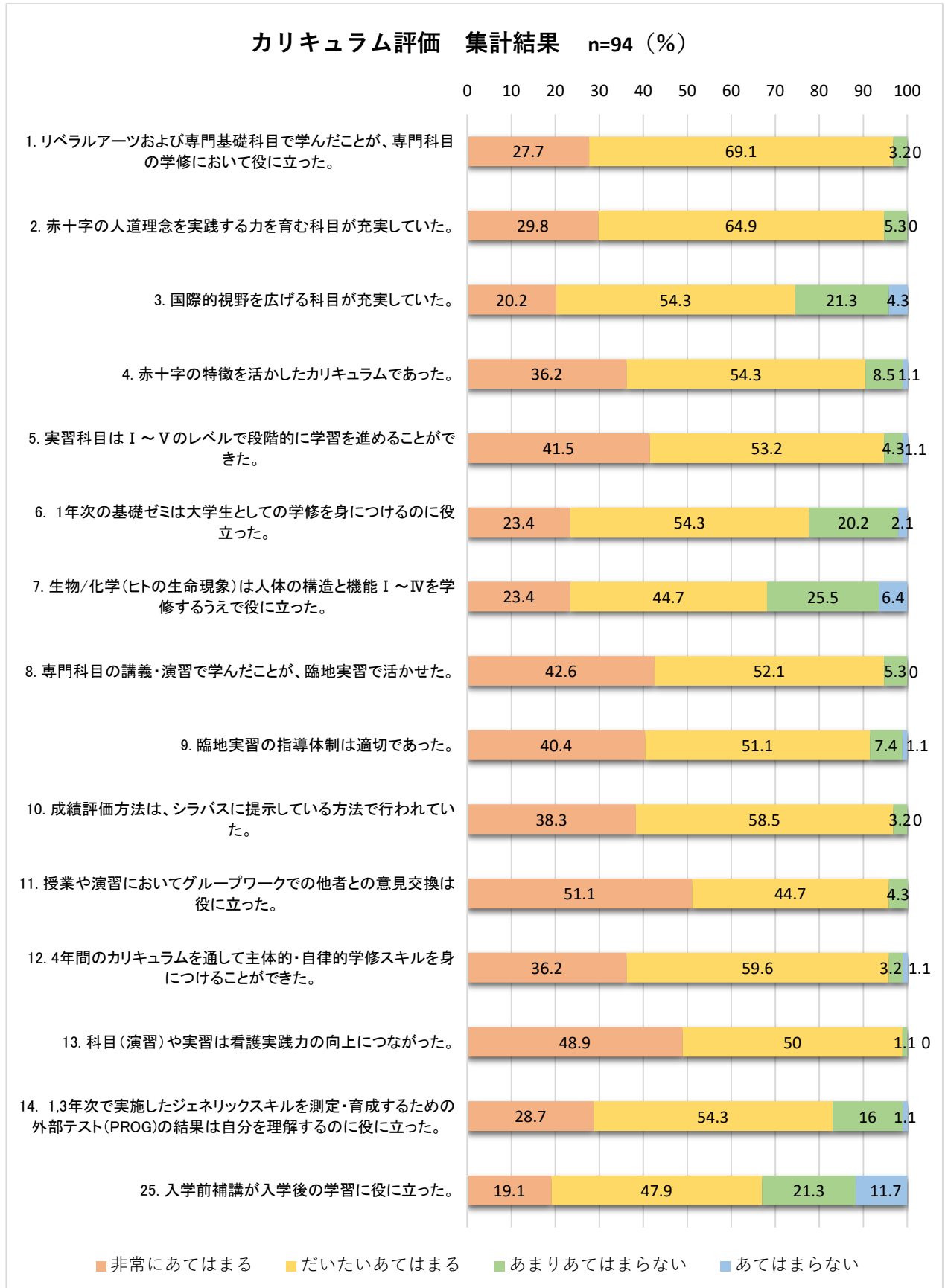
令和3年度 卒業予定者アンケート結果〔カリキュラム評価〕

対 象 18期生 99名（令和3年度卒業予定）

調査期間 2021年2月15日～3月14日

方 法 Formsによるアンケート調査

回収率 94.9%（94部回収）



結 果

今年度の卒業予定者のアンケート回答結果は、大半が「非常にあてはまる」「だいたいあてはまる」であり、概ね肯定的な評価であった。

【自由記述の抜粋】

- ・リベラルアーツ・専門基礎科目の学びは専門科目、特に実習で役立つという意見が多かった。
- ・本学の教育理念である人道に関する赤十字関連科目の充実について、入学前は赤十字の知識はなかったが学修をとおして赤十字への理解も深まり、赤十字病院で働きたいと思うようになったという意見があった。一方で、人道の実践とは何か疑問を抱く意見もあった。
- ・看護の実践力向上について、オンライン実習での取り組みで看護過程の力はついたものの、実際の患者に技術を実施することは難しかったなどの意見があった。

評 価

18期生は3年次レベルⅣ実習、4年次レベルⅤ実習がオンラインに変更になったが（一部臨地）、ほぼ全員が演習・実習は看護実践力の向上につながったと回答していた。各領域の実習指導計画が適切かつ効果的であったと考えられる。

昨年度より「非常にあてはまる」「だいたいあてはまる」の割合が下回った項目は「3. 国際的視野を広げる科目が充実していた」と「14. 1,3年次で実施したジェネリックスキルを測定・育成するための外部テスト（PROG）の結果は、自分を理解するのに役に立った」の2つである。

国際的視野を広げる科目の充実については、昨年度より10%減少しており、その理由として国際の必修科目が2年次のみであったことや、3、4年次には国際行事などの活動がコロナ禍により制限されたことがあげられる。学生から「語学を学ぶだけで国際的な視野は広がりにくい」という意見もあった。

PROGの結果の活用については「非常にあてはまる」「だいたいあてはまる」の割合が昨年度より7%減少していた。PROGの結果を就職試験など有効に活用した学生もいたが、活用していない学生もあり、教員および学生のPROGの活用の仕方に課題があると推察される。次年度はDPの評価とあわせてPROG結果の活用について検討する。

入学前補講が入学後の学習に役立ったという質問項目は新たに追加したものであり、学生の回答では「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が多かった。4年次に入学前補講を想起し回答することが困難だったのではないかと推察され、質問内容の再検討が必要である。次年度は、教務委員会が実施する入学前補講後のアンケート結果や1年次の生物・化学・生化学と人体の構造と機能の成績との評価をふまえ、質問内容を検討する。

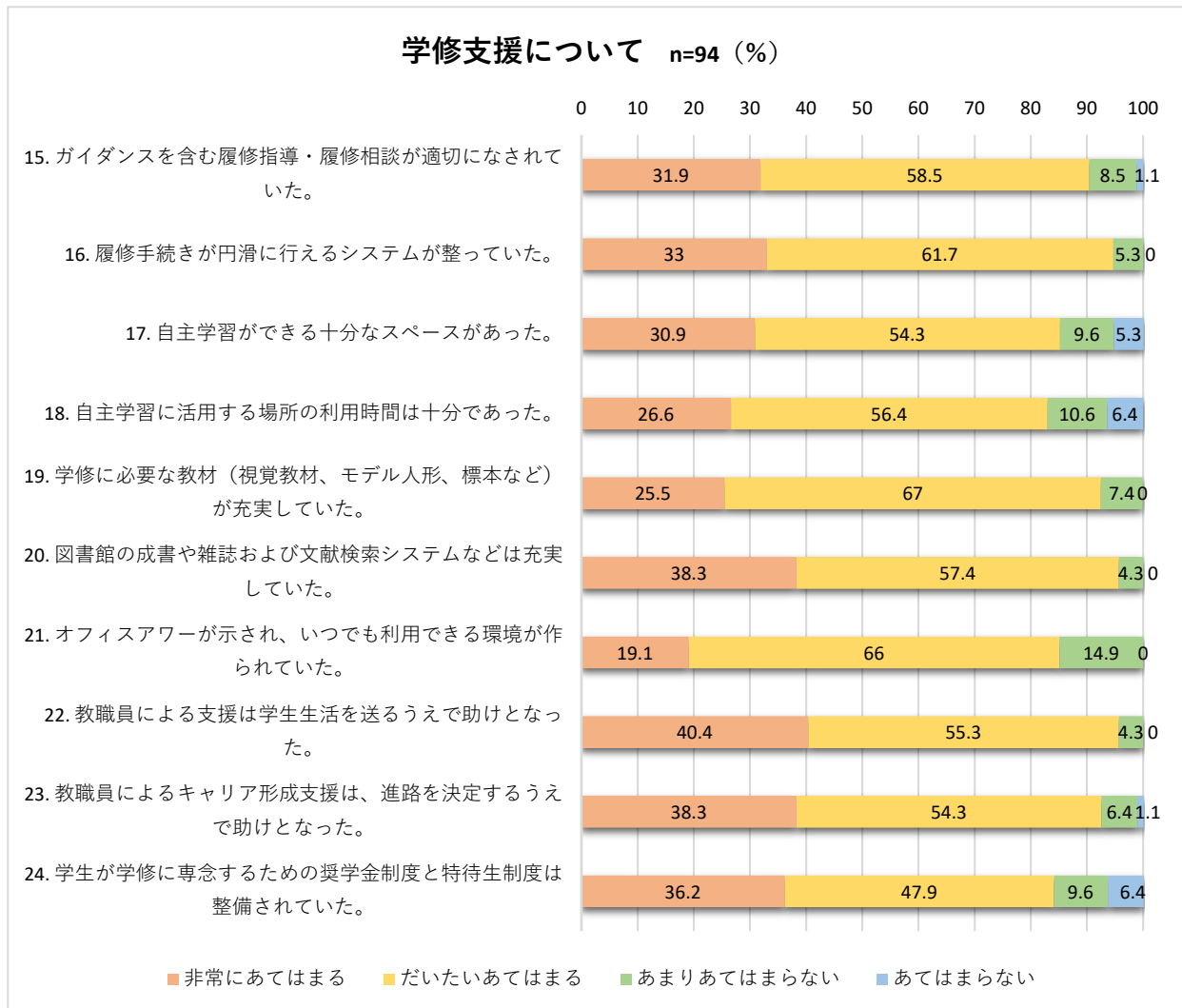
令和3年度 卒業予定者アンケート結果〔学修支援〕

対 象 18期生 99名（令和3年度卒業予定）

調査期間 2021年2月15日～3月14日

方 法 Formsによるアンケート調査

回収率 94.9%（94部回収）



結 果

今年度の卒業予定者の学修支援に関するアンケート回答結果は、大半が「非常にあてはまる」「だいたいあてはまる」であり、概ね肯定的な評価であった。

【自由記述の抜粋】

- ・ 臨地での実習はできなかったが、演習物品やオンライン教材の活用により理解が深まった。
- ・ AAの支援により就職活動をスムーズに行うことができた。
- ・ 学務課による履修支援が整っていた。

評 価

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況に伴い、さまざまな取り組みが対面とオンラインのハイブリットで行われたものの、学修環境の整備は適切であったと考える。一方で、学内施設の利用時間の延長について要望があり、新型コロナウイルス感染状況を考慮し検討する。